

月例報告 11月

11月に入り、トロントでは対面でのイベントも多くなってきました。また対面で人に会う機会もぐっと増えてきました。

カナダへの外国直接投資を促進・支援・加速化することをミッションとし、カナダ政府機関として、日本を含む国々からの企業に対してカスタマイズしたサービスを提供、カナダでの投資案件を紹介するインベスト・イン・カナダの皆様にお会いしました。オンタリオ州担当ディレクターのグレッグ・ダ・レイ氏、投資サービスアドバイザーのサマンサ・カルドウェル氏、そして日本担当の阿部宏輔氏にお会いしましたが、阿部氏はオタワをベースに活動しておられるもののこの日はトロントに出張されているとの事でした。その翌週8日には、北米の投資関係者の集まりである、トロント・グローバル・フォーラムがトロント市内のホテルで開催され、久しぶりに大勢の参加者と対面で講演を聞いたり、レセプションに出席したりしました。いつもオンラインで見ている方々、また久しぶりに対面で会う方々、さらに全く新しく出会う方々。対面で会う行事の醍醐味を久々に感じました。



【日本企業訪問】

【近鉄インターナショナル・エクスプレス】

ミシサガに事務所を構えておられる近鉄インターナショナル・エクスプレスは、近畿日本ツーリストのカナダの会社です。廣田久所長以下3名の皆様に出迎えていただきました。旅行業界はコロナ禍にあって最も厳しい打撃を受けた業界の1つです。近鉄インターナショナルも、パンデミック中は、日本からカナダへの観光客はゼロとい

う日々が続きました。感染状況が落ち着くにつれて、カナダ国内の旅行者が少しずつ戻り始めたとの事でした。またコロナ禍にあっても、留学生にはビザが発給されるようになり一定数の方々がカナダに入国されたとのことです。現在は、来年のいつかのタイミングで回復するであろう、人的交流の再開に向け、各種問い合わせへの対応、団体旅行の調査などを行っているとの事でした。ビジネス客の出張についても、パンデミックの影響で激減。現在少しずつ再開しているとの事ですが、IT技術の活用に伴い、会社によっては実際の出張は行わない、という会社も増えてきているようです。仮にパンデミックが収束しても、ビジネスマンの出張については、パンデミック前のレベルに回復する事は無いのではないか、との見立てでした。

困難の中にあっても、オンラインでのカナダ訪問などを企画し、顧客の皆さんとのつながりを重視してきたとの事です。顧客を大事にする、同社の姿勢が良く現れていると感じました。来年以降は、是非、コロナも落ち着いて人的交流の再開が現実となることを願い、訪問を終えました。



【J Athletics Canada Inc.】

J Athletics Canada は、「スポーツは武器になる。」をモットーに、トロント、GTA の日系コミュニティーの交流をスポーツで行う事などを目標に、未来のスポーツクラブとして、2006年より活動を行ってきています。青少年の方々を対象にスポーツを通じた体力づくり、交流、さらには日本らしい礼儀正しさを身に付け、日本社会で活躍できる人材育成を行う、などの目標を掲げて活発な活動を続けてこられました。マーカムの練習場を訪問し、海上（うながみ）誠代表、三輪翔太マネジャーに丁寧に出迎

えていただきました。参加者は日系家庭の子どもさんたちがほとんどですが、最近は日本語でサッカーを学び、礼儀を身につけてほしいという親御さんの子どもも参加することになった、とのことでした。

私は、サッカーは本格的にはやった事は無いのですが、この日は年少のクラスに入れていただき、タグ取りやミニサッカーを少しだけですが楽しませてもらいました。



あっという間にタグを取られ、
余り練習にならなかった。



見事ゴールへのパスが決まりました！

2020年の春は、コロナが直撃。特に激しい人的接触を行うサッカーのようなスポーツは野外で行うとは言え、一体どのような対策を取るべきなのか模索の日々が続いたとの事でした。その間、参加する生徒も半減してしまいました。この夏以降はコロナ対策も進み、生徒さんの約半数は戻ってきておられるとのことでした。

今後に向けては、サッカーワールドカップ・ドーハ大会に日本チームが出場できるかがカギになります。予選突破すればドーハ大会では、再びパブリックビューイングの準備が進むことでしょう。また2026年はカナダ、アメリカ、メキシコの北米3カ国での大会実施が決まっています。日本代表がトロントに来る日が来るのを信じて活動を盛り上げていきたいとの事でした。

目下の悩みは室内練習場の不足。生徒さんが戻るにつれて他のクラブチームも同じような時間帯に練習場を使うことになります。土曜日の午後は青少年の参加者にとつ

ではゴールデンタイムです。この時間帯に良い条件の練習場を確保するのが最大の悩みとのことでした。

今年実施された、東京オリンピック・パラリンピックでもスポーツの素晴らしさは体験済みです。総領事館としても、将来を担う人材輩出に向けて、可能な支援を行っていく所存です。



【Activ8 (アクティブイト)】

テレビコマーシャルでもお馴染みの人材派遣の会社ですが、トロントでは主に日本からの留学生関連の仕事がされています。ダウンタウンの事務所に、菊本真由美様、井上沙香恵様を訪ねました。コロナ禍の中で、一時留学ビザは発給されませんでした。今年になって再開されると、これまでにない多くの照会が寄せられたとのことでした。驚いたことに、コロナ禍以前と比べると10倍近いのではないかとのことでした。現在は遠隔で授業を受けて英語力をアップし、来年からは本格的に留学、という計画を立てている方も非常に多い、との事でした。

この背景には、若者の多くに、コロナ禍で人と会えないが、時間はある、コロナ禍が落ち着けば是非、外国で勉強したいという思いが募った事があるのではないかと、との事でした。

留学先として、カナダ、トロントの強みをうかがったところ、①大学、カレッジ、語学学校など、学び方の選択肢が豊富、②ビザが比較的容易に発給される、③治安が良い、④マルチ・カルチャーで外国人に寛容な土地柄、⑤まだ日本人が比較的少ない、⑥米国や欧州にも足を伸ばせる地の利がある、など、多くの利点がすぐに挙げられました。どれも、「なるほど!」と思う点ばかりです。

今後は、留学だけではなく、学生の短期研修、企業でのインターンなど、新しい形の交流の要望も多く、来年以降、取り組んでいきたいとのことでした。

今後の日加間の交流強化に向けて、総領事館としてもできる限りお手伝いしていきたいと思います。

